

事前質問・意見一覧表

4. 防災力の強化

その他

● 質問

No.	内 容	担当課
1	<p>想定外に備えた企業・組織の防災対策の強化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、一般の企業に対してBCP策定を直接義務付ける法律、罰則規定もないため努力義務となっています。連合調査によると、策定済みの民間事業は、全産業平均で35.8%となっています。(情報通信 59.1%、建設 50.0%、製造 48.1%、卸売 46.6%、運輸・郵便 40.0%、その他サービス 35.1%、小売 27.9%、宿泊・飲食 9.4%、金融・保険 86.9%) ・このように災害に直面した場合の最小限の損害、復旧へのスピード化は必須項目と感じます。市として八戸市に所在する企業の策定実態はご存知でしょうか。あれば教えていただきたいと思えます。 <p>【回答欄】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市として市内事業所のBCP策定実態調査は実施していませんが、八戸商工会議所が平成28年2月に会員を対象に実施した調査によりますと、回答のあった1244事業所のうち、BCP策定済は16%、今後策定予定は24%、策定予定なしは60%という結果となっています。 ・また、民間調査会社が昨年12月、全国の中小企業を対象に実施した調査によりますと、策定済みの企業は16.9%で、従業員規模が小さい企業ほど策定割合が低くなっており、当市も同様の傾向にあるものと考えています。 	商工課
2	<p>地域の自主防災組織活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の自主防災組織のカバー率は、全国平均が81.7%となっている中、東北地方は75.9%で、全国を9ブロックに分けると8番目となっています。(四国地方 93.3%、東海地方 93.2%、近畿地方 90.1%、北陸地方 85.6%、中国地方 83.9%、九州・沖縄地方 79.4%、関東地方 77.4%、北海道地方 54.3%) ・消防団や水防団も同様、担い手不足等が課題となっているのだと思いますが、今後さらに防災への参画・協力、ボランティア休暇制度の充実など検討を進めることが求められると思います。現在の八戸市内の状況について教えてください。 <p>【回答欄】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八戸市内の自主防災組織数は、令和元年6月末現在で85団体、自主防災組織のカバー率は88.3%となっており、全国及び青森県の平均を上回っております。 ・当市では、災害に強いまちづくりを目指し、自主防災組織に対する補助制度として、防災資機材の整備に要する経費を助成する「自主防災組織育成事業補助金」、防災訓練等の活動に要する経費を助成する「自主防災組織活動支援助成金」を創設し、活動を支援しております。 ・また、自主防災組織の代表者で構成する「八戸市自主防災会連絡協議会」を立ち上げ、会議等を通じて地域間の情報共有や協力体制の構築を図っているほか、防災訓練等における防災講話や、自主防災組織リーダー研修会を実施することで、地域の防災力向上を図っているところです。 	防災危機管理課

2. 地域経済の再興

(1) 水産業の再興

● 質 問

No.	内 容	担当課
3	<p>意見への対応状況：P4 No.7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度実施予定の「鯖サミット」について、概要や期待できる効果などを教えて下さい。 <p>【回答欄】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概要について 開催日：11月2日（土）、3日（日） 場所：八食センター 主催：鯖サミット2019in八戸実行委員会 （八食センター、八戸前沖さばブランド推進協議会、VISITはちのへ、八戸商工会議所、八戸市） 特別協力：全日本さば連合会 内容：市内外の鯖産地ブース出店。八戸圏域をPRする8市町村ブース出店。 ステージイベントほか 来場者見込み数：約4万人 ・期待できる効果について 全国の鯖の産地で開催している当該イベントを当市に誘致し、鯖のブランディングや鯖産地間の交流による活性化、鯖の消費拡大、観光客の増加などの効果が期待されます。 	水産事務所
4	<p>施策シート：P4 No.16</p> <p>経営安定化サポート資金の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産加工業における事業用資産の直接被害と間接被害とありますが、それぞれの内容と両者の違いを教えてください。 <p>【回答欄】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接被害とは「主要な事業用資産が全半壊または流出したもの」であり、その方々の支援としまして、22年度～23年度に当該資金内に設けられた「災害復旧枠」の利用に際して、その資金借入に係る利子及び信用保証料を県及び市の負担にて全額補給しております。 ・また、間接被害とは「震災の影響により、売上高の減少や売掛債権回収の長期化又は不能等、事業の活動に影響を受けているもの」であり、その方々の支援としまして、当該資金内に設けられている「経営安定枠（災害枠）」の利用の促進を図るとともに、その資金借入に係る信用保証料を全額補給しております。 	商工課
5	<p>施策シート：P5 No.20</p> <p>水産加工品のブランド化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R1年度の事業費がH30年度決算額と比較して大幅に増えていますが、「鯖サミット」開催によるものでしょうか。そのほかの新たな事業の企画によるものでしょうか。 <p>【回答欄】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業費の大幅な増額は、市も参画している鯖サミット実行委員会への負担金200万円が主なものです。 	水産事務所

No.	内 容	担当課
6	施策シート：P8 施策を取り巻く課題や論点 ・東日本全体の水産業の復興に寄与する産業モデルとして考えられるものを教えて下さい。	水産事務所
	【回答欄】 ・一例として、生産者と加工業者の連携による6次産業化の取り組みを促進し漁業者の所得向上を図るなど、新たな流通体系の構築が議論されています。	
7	・八戸市の基幹産業である水産業について、国や県はどのように関わっているのか教えてください。	水産事務所
	【回答欄】 ・国⇒全国的な水産業の振興、活性化にかかる法整備やインフラ整備に伴う市への補助金交付などを行っております。 ・県⇒県内の水産業に関するインフラの整備や管理（八戸漁港）や魚市場開設に関する許可などを行っております。	

● 意 見

No.	内 容	担当課
8	施策シート：P8 施策を取り巻く課題や論点 ・少子高齢化に対応できる国際競争力を備えた強靱な水産業の構築に向けて、新たな技術導入を精力的に進めていくことを希望します。	水産事務所
	【回答欄】 ・漁業就業者数が減少している状況を鑑み、水揚げ作業時間の短縮化や省力化が図られるよう新たな技術に関する情報収集を今後も進めてまいります。	

(2) 農林畜産業の再興

● 質 問

No.	内 容	担当課
9	意見への対応状況：P4 No.9 ・現行調達方法の課題をより具体的に教えて下さい。 ・また、新たな方策の可能性についても教えて下さい。	学校教育課
	【回答欄】 ・学校給食食材への調達に当たっての課題は、数量と納入安定性と価格の3つです。当市におけるエコファーマー認定及び特別栽培農産物認証の状況を確認したところ、そば1名、大豆1名、ブルーベリー2名、米1名1団体であることから、給食食材としては、数量や納入安定性を満たすことは難しく、また、これら環境保全型農業で生産された農産物は当然、他の農産物よりも高付加価値であることから、調達価格に関しても課題があります。 ・新たな方策の可能性についてですが、現在、学校給食メニューには、地産地消の観点から、地元産食材を使用したリンゴゼリーやブルーベリー大福、イカボール、サバの味噌煮などの加工食品を積極的に取り入れるようにしていることから、こういった加工食品の使用素材の一つとして、数量、納入安定性、価格等の条件が整えば、学校給食への調達の可能性が生じてくるものと考えます。	

No.	内 容	担当課
10	<p>意見への対応状況：P4 No.10</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八戸地域畜産関連産業振興ビジョンの行動計画を策定していない中、八戸地域畜産振興推進会議において「進行管理」しているとしています。この場合、産業界の何らかの方向性をもって対応していると考えてよろしいでしょうか。 	農林畜産課
	<p>【回答欄】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜産業界の団体である（一・社）青森県畜産飼料コンビナート振興協会の事業と連携し事業を行っております。 	
11	<p>施策シート：P14 No.14</p> <p>畜産業振興事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は県への環境条例の緩和要望のほかに、畜産業振興に関わる施策はありますか。 	農林畜産課
	<p>【回答欄】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、畜産物の消費拡大イベントの実施のほか、畜産共進会出品補助や受精卵移植を行う農家への補助及び繁殖雌牛の導入を支援します。 ・また、県に対しては、地場産畜産物の消費拡大への支援と家畜排せつ物有効利用の促進への支援を要望しております。 	
12	<p>施策シート：P16 施策を取り巻く課題や論点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農林畜産は地域の食を支える重要な産業です。長期的には組織化・再編連携による効率化が考えられると思います。将来的な方向性はどのようなビジョンが考えられているのでしょうか。 	農業経営振興センター 農林畜産課
	<p>【回答欄】</p> <p>（農業経営振興センター）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業について、平成 29 年 4 月に策定した「第 11 次八戸市農業計画」に基づき、既存の経営体の規模の拡大や経営の多角化、新規就農、他産業からの新規参入、集落営農、並びに法人化を促進することにより、経営感覚に優れた多様な農業経営体を育成し、地域特性を生かした多彩な農業生産による産業としての農業の振興と持続的発展を図ることにしています。 <p>（農林畜産課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜産業についても、「第 11 次八戸市農業計画」に基づき畜産振興を図ることにしています。 	

(3) 企業活動の再興

● 質 問

No.	内 容	担当課
13	<p>施策シート：P28 No.29 新産業団地整備・開発推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新産業団地の開発・整備の進捗状況は如何ですか。 ・現状で企業等から新産業団地に対する問い合わせや引き合いなどがありますか。 <p>【回答欄】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新産業団地（八戸北インター第2工業団地）の開発につきましては、H29年度に開発区域及び団地全体の土地利用計画等を決定する基本計画を策定しております。 ・H30年度は、地権者説明会を開催し、道路・水路・関連施設などの比較検討や年次計画等を作成する基本設計を取りまとめたほか、用地測量や補償物件調査を実施しております。 ・今年度は、工事発注の準備となる実施設計や地質調査を行う他、用地買収も進めております。 ・R2年度は、引き続き用地買収を進め、工事にも着手する予定としております。計画通り順調に進んだ場合には、R5年度の分譲見込みとなります。 ・現状で企業からの引き合いはありませんが、事業スケジュールや区画面積等に関する問合せが数件ございます。 	産業労政課

● 意 見

No.	内 容	担当課
14	<p>施策シート：P29 施策を取り巻く課題や論点</p> <p>雇用創出にもつなげる企業誘致の促進や新分野などの各種産業の集積に向け、次の項目に取り組んでいただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高速道路・新幹線・空港といった交通アクセスの利便性を活用した集積産業と関連する周辺産業の拠点化 ・流通基地などの分野の川上から川下までを広くターゲット化した誘致 ・少子高齢化対策として、高校・大学と連携した地域を支える人材発掘 <p>【回答欄】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致にあたっては、陸海空の交通の結節点となっている当市の強みを積極的にPRしてきたところであり、その利便性が多様な産業を集積した要因の一つと考えております。 ・現在分譲中の八戸北インター工業団地は、高速道路のインターチェンジや八戸港といった物流インフラへのアクセスが良好であり、近年、物流関連企業をはじめ、様々な企業の立地が急速に進んでいるところであります。 ・八戸北インター第2工業団地についても、物流インフラへの高い利便性を有していることから、こうした当地域ならではの優位性を積極的に情報発信し、多様な産業集積に取り組むたいと考えております。 ・人材の発掘については、地元企業ファンづくりプロジェクトにおいて高校生や大学生への地元企業の周知を図っており、また、誘致企業と高校が連携してまちづくりの課題解決に取り組む事例も生まれております。 	産業労政課

No.	内 容	担当課
15	<p>施策シート：P29 施策を取り巻く課題や論点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害を受けた事業者が今もなお環境の変化や間接被害の影響などで支援を必要としていることから、支援を継続していただきたい。 ・また、企業誘致の促進によって人口増を含めた多方面に潤いを促すためにも、活発なセールスと開拓が必要です。 	商工課 産業労政課
	<p>【回答欄】 (商工課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県や関係機関とも連携しながら、引き続き支援に取り組んで参ります。 <p>(産業労政課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致は雇用創出や地域経済への波及効果など様々な効果が期待できることから、これまでも各種支援制度を拡充しながら、首都圏・中部圏でのセミナー開催や企業訪問等によって企業開拓や誘致活動を展開しており、今後とも積極的に取り組んでまいります。 	

(4) 観光・サービス業の再興

● 質 問

No.	内 容	担当課
16	<p>意見への対応状況：P5 No.13</p> <p>三社大祭の山車製作・展示場所について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柏崎小学校跡地以外で中心市街地に展示はできないでしょうか。 ・旧市民病院跡地（まつりんぐ広場）を更に活用する方法はないでしょうか。 ・マチニワの横に空き地があるが、今後、山車製作・展示に関し活用を予定しているのでしょうか。 	観光課
	<p>【回答欄】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柏崎小学校跡地は現在、山車の製作場所を整備する方向で検討しております。 ・なお、中心市街地におきましては、昨年度からマチニワにおいて山車展示を行っており、今年度は、三社大祭期間中を除く、7月31日から8月16日まで長横町粋組の山車展示を行なう予定となっております。その他、長者まつりんぐ広場においても、毎年お盆の時期に3つの山車の展示を行っております。 ・長者まつりんぐ広場の活用につきましては、広場の床面の耐荷重の関係で、現状のままでは山車を展示することが難しい状況です。 ・次に、マチニワ横の空き地は民有地であることから地権者の意向を確認する必要があります。また、実際に山車組からの相談を受け、祭り期間中の山車置き場として利用できるか検討したものの、出入り口の幅が狭く、山車の搬出入が難しく、断念した経緯があることから、現時点では予定しておりません。 	

No.	内 容	担当課
17	<p>意見への対応状況：P5 No.13</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご苦労されていることは理解できます。現在の状況のご説明をいただけないでしょうか。 <p>【回答欄】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備内容について地域と協議しながら進めてきましたが、山車小屋の棟数等について、山車組を取り巻く環境の変化によって、市が当初示していた方針と地域の要望が合致しなくなったことから当初想定していたスケジュールどおり進んでいない状況です。 ・現在は、棟数や構造について、地域や山車組と協議しているところです。 	観光課
18	<p>意見への対応状況：P5 No.13</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との協議経過とその内容、及び基本設計のコンセプトと今後のスケジュールをお知らせ下さい。 ・また、300年の節目への対応も教えて下さい。 <p>【回答欄】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山車製作場所につきましては、東部終末処理場の4山車組を移転させることとしておりましたが、柏崎地区や他地区の山車組が自力で山車製作場所を確保できないと言った当初とは異なる状況が生じていることから、これらの課題も含め、総合的に対応を検討する必要が出てきております。 ・基本設計のコンセプトとしましては、東部終末処理場4山車組の移転先としての山車小屋の整備と、地域の催しや憩いの場所としての広場・緑地を整備するものですが、地域の意向が重要と考えておりますので、今後は祭りに対する行政の支援のあり方を踏まえながら、引き続き、地域の皆さんやはちのへ山車振興会などと協議を進めて参りたいと考えております。 ・八戸三社大祭300年の節目につきましては、主催者である八戸三社大祭運営委員会などの祭り関係団体と協議し、対応について検討して参ります。 	観光課
19	<p>意見への対応状況：P6 No.15</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Wi-Fiの整備はショッピングセンターや商業施設など中心街でも整備が進んでいると思いますが、訪日外国人旅行者に中心街へ来てもらうための取組があれば教えて頂きたい。(観光客が八食センターで止まっている気がします) <p>【回答欄】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの取組としましては、市では、インバウンド受入環境整備として、「はっち」、「マチニワ」等の公共施設へのWi-Fi整備を進めたほか、昨年は、「VISITはちのへ」の前身である(仮称)はちのへDMO設立準備委員会が、八戸屋台村みろく横丁において、英語・中国語によるメニュー表記を行い、希望する店舗へ配布をいたしました。 ・また、八戸観光創造委員会では、おもてなし力向上を目指した外国語講座の開催や、インバウンド戦略に関する勉強会等を開催いたしました。その他、中心街の大型店舗では、免税店の登録や、多言語による館内放送を行うなどのインバウンド対応を行っております。 	観光課

No.	内 容	担当課
20	<p>施策シート：P39 施策を取り巻く課題や論点</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京オリンピックなど国際的なイベントが続くことから、インバウンドが増えることが期待されます。当該時期に集客策を講じることは効果的だと思います。その効果を評価するにはどのような指標が考えられるのでしょうか。 また、現状分析や動向予測はどのようなものかお教え下さい。 	観光課
	<p>【回答欄】</p> <ul style="list-style-type: none"> インバウンドの数を客観的にとらえる指標としては、外国人宿泊者数が挙げられます。 観光庁の宿泊旅行統計調査によりますと、平成30年の県内外国人延べ宿泊者数は、前年比約34%増の349,050人泊、八戸市内では前年比約12%増の16,982人泊となっており、近年大きく増加しております。 今年のラグビーワールドカップや、来年の東京オリンピック、2025年の大阪万博と、日本を訪れる外国人は今後も伸び続けるものと予測しております。 今後は、「VISIT はちのへ」が中心となりインバウンド対応を強かに推進していくこととしており、市としても連携を図りながら、インバウンド対応に取り組んで参ります。 	

● 意 見

No.	内 容	担当課
21	<p>施策シート：P30 施策の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光・サービス業の再興において、近郊の大型集合施設の集客力が大きいイメージを持っています。中心街において自家用車を意識した駐車場施設の整備と駐車料金の無料化などの策が必要ではないでしょうか。 	まちづくり文化推進室
	<p>【回答欄】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心市街地への来街手段として、多くの方が自動車を利用していることは、アンケート調査等の結果からも見てとれ、自由意見の中には、駐車場の改善要望や駐車場の無料化などの意見が多いことも認識しております。現在、自動車による来街者に対する利便性向上策として、㈱まちづくり八戸で「おんでカード」を発行しており、今年9月に機械式駐車場に対応したカードにリニューアルすることから、駐車場加盟店が増加し、サービス向上が図られるよう期待するとともに、中心市街地活性化協議会の交通アクセス検討部会においても、今後の中心市街地の駐車場のあり方や自動車による来街者への対応などの議論を重ねて参りたいと考えております。 	
22	<p>施策シート：P39 施策を取り巻く課題や論点</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光情報について、市内における各種イベント開催の情報発信は、市民も参加し体験できる環境を作るためにも、市外へ向けての発信だけではなく、住んでいる人がもっと情報を得ることができるよう工夫していただきたい。 	観光課
	<p>【回答欄】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光情報の発信については、市外・県外はもとより、市民向けの情報が大切であるとの考えのもと、「広報はちのへ」への記事掲載や、マスコミへの情報提供のほか、観光ガイドブック等の作成や、チラシ・ポスターの設置、ホームページやSNSでの発信などを実施しております。 今後も市民向けの効果的な情報発信に努めて参ります。 	

(5) 風評被害の防止

● 意見

No.	内容	担当課
23	<p>施策シート：P45 施策を取り巻く課題や論点</p> <ul style="list-style-type: none"> 八戸圏域の放射線については安全レベルを確保している状態が継続しており、市民の安心感が醸成されていると思われます。今後も、不測の事態に対応できる体制整備に努めて戴きたいと思います。 	<p>環境保全課</p> <p>農業経営振興センター</p> <p>農林畜産課</p> <p>水産事務所</p>
	<p>【回答欄】</p> <p>(環境保全課)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民の安全性を確認する上で、迅速かつ的確な空間放射線量の測定体制を整えるため、当課で保有している空間放射線測定器の保守点検、更新を今後も継続するとともに、市庁敷地内放射線量モニタリングの公表等を通して、適切な安全情報の発信に努めてまいります。 <p>(農業経営振興センター・農林畜産課)</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業について、引き続き農作物の放射性物質に関する県の調査結果を市ホームページ、並びにBe-FMの番組内で公表するとともに、今後とも不測の事態にも対応し得る体制整備に努める意向です。 <p>(水産事務所)</p> <ul style="list-style-type: none"> 週1回の検査を引き続き実施するとともに、万が一、基準値を超えた場合の対応については、適切に対応できる体制をとってまいります。 	

その他

● 質問

No.	内容	担当課
24	<p>施策シート：P1・P9 施策の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 水産業・農林畜産業の再興には従事者の低減を抑えることも大切と思われます。従事者数の推移についてお教え下さい。 	<p>水産事務所</p> <p>農業経営振興センター</p> <p>農林畜産課</p>
	<p>【回答欄】</p> <p>(水産事務所)</p> <ul style="list-style-type: none"> 漁業就業者数 (出典：漁業センサス (国の調査)) S58年 3,620人、S63年 2,922人、H5年 1,891人、H10年 1,404人、 H15年 1,104人、H20年 1,214人、H25年 977人 <p>(農業経営振興センター・農林畜産課)</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業について、農林業センサスにおける市の平成27年の就業人口は2,557人となっており、平成22年比で23%、平成17年比で39%の減少になっています。 (畜産業の就業人口は、農林業センサスの数値に含まれております。) 	

3. 都市基盤の再建

(1) 市街地の整備

● 意見

No.	内容	担当課
25	<p>施策シート：P6 施策を取り巻く課題や論点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域的な道路ネットワークは、新たな産地の誕生や工場立地など、地域の経済活性化に大きく寄与することから、早期整備を図って欲しいと思います。 ・また、高度成長期に作られたインフラの老朽化への対応が大きな課題となっており、将来への安全投資が必要と思います。 <p>【回答欄】 (道路建設課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域的な道路ネットワークの整備は、委員のご意見のとおり、地域産業・経済の活性化などに大きな効果をもたらすものと考えております。 ・経済活性化の例として、八戸地域と岩手県北地域における鶏卵の生産がございます。 ・この地域は、冷涼な気候と飼料供給拠点に近接していることから、鶏卵の一大産地となっており、東京都中央卸売市場でのシェアは、青森・岩手両県で6割以上を占めております。 ・平成26年3月に、八戸・久慈自動車道のうち、八戸自動車道の八戸ジャンクションから階上インターチェンジまでの区間が開通いたしました。このことにより、鶏卵の出荷の出発時間を繰り下げることができるようになったため、遠隔地へ新鮮な卵の輸送が可能となり、当日産んだ鶏卵の出荷量が約1.8倍に増加しているなど、青森県産の鶏卵の生産量が年々増加傾向を示しております。 ・八戸・久慈自動車道が、さらに久慈市方面へ向けて延伸されることにより、岩手県北地域と一体となった、畜産業のさらなる活性化が期待されております。 ・道路ネットワークの整備は、この他にも、地域の人的・物的交流圏の拡大、観光振興のほか、災害時における緊急支援物資輸送や防災機能の強化といった命を守る道路として機能するなど、多方面にわたり効果をもたらすものことから、高規格幹線道路、都市計画道路といった広域的な道路ネットワークの早期整備に向けて、国・県に対し、引き続き要望を行ってまいります。 <p>(道路維持課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市では、道路施設の老朽化対策として、橋梁やトンネルなどの重要構造物の長寿命化を図るため、定期的な点検を行い、必要に応じて修繕工事を実施しています。また、道路の舗装についても、路線の優先度に応じて、順次、修繕を実施しています。 ・インフラの老朽化対策は、当市においても重要な課題でありますので、今後も引き続き、道路施設の長寿命化に取り組んでまいります。 	<p>道路建設課 道路維持課</p>

No.	内 容	担当課
26	施策シート：P6 施策を取り巻く課題や論点 ・八戸の市街地の歩道には段差やブロックの剥がれなど、平常時でも気になるところが多い。避難道として安全安心に利用できるよう歩道の維持管理をお願いしたい。	道路維持課
	【回答欄】 ・市道の歩道の維持管理については、定期的な道路パトロールを実施しているほか、市民からのメール等による要望を受けて、随時歩道の修繕等を実施しております。 ・今後も引き続き、道路パトロール等による情報収集に努め、避難時に利用される歩道の安全安心な歩行空間の確保に向けて、適切な維持管理を行ってまいります。	

(2) 港湾の整備

● 質 問

No.	内 容	担当課
27	意見への対応状況：P2 No.5 ・港湾計画改訂に向けての具体的な動きはありますか。	港湾河川課
	【回答欄】 ・港湾計画の改訂に当たっては、港湾管理者である青森県、国、八戸市、港湾利用者等の関係機関との調整及び合意を得る必要があります。 ・今年度、青森県が港湾利用者の意向等を把握することを目的として「八戸港の将来を考える勉強会」を開催しており、今後、国、八戸市、港湾利用者等の関係機関と協議を行いながら、方向性を検討すると伺っております。 ・本市としては、勉強会に参加するとともに、次期港湾計画の改訂に向けて、引き続き様々な機会を通じて県に対して働きかけて参ります。	

● 意 見

No.	内 容	担当課
28	施策シート：P8 No.8 八戸港の整備 ・防波堤の整備や公称水深の維持、また施設の老朽化対策などへの継続的な取り組みをお願いします。	港湾河川課
	【回答欄】 ・防波堤や航路・泊地の整備、港湾施設の老朽化対策の推進については、当市の重点事業要望事項のひとつとして掲げ、毎年、国や県に対して要望活動を行っております。 ・本市としては、引き続き要望活動を継続して参ります。	

(4) 道路・公園・下水道等の整備

● 質 問

No.	内 容	担当課
29	<p>意見への対応状況：P2 No.6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更なる工期短縮に向けた協議の進捗状況について教えてください。 	道路建設課
	<p>【回答欄】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新大橋架替の施工・現場条件に適している工法や他都市の施工事例を情報収集・検討を行い、その結果を基に関係機関と協議をしておりますが、現段階では工期短縮には至っておりません。 ・しかしながら、引き続き関係機関と協力しながら短縮を目指してまいります。 	
30	<p>意見への対応状況：P2 No.6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工期短縮の課題を具体的に教えて下さい。 	道路建設課
	<p>【回答欄】</p> <p>工期短縮に向けた課題は次のものが挙げられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台風やゲリラ豪雨などの天候 ・工事期間を短縮できる建設工法（方法） ・高力ボルトなどの橋梁資材や建設機材の調達 ・土木作業員の減少による人員確保 	
31	<p>施策シート：P16 No.6</p> <p>新大橋整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新大橋工事に伴い、市外からの車両が告知に気付かず新大橋に向かっている車があるようです。市境、近隣道路への告知はどのようにされているのでしょうか。 	道路建設課
	<p>【回答欄】</p> <p>車両に対する通行止めの周知は以下のとおり行っております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成31年3月、国道・県道に設置している電光掲示板に「新大橋通行止め」の表示を各管理者に依頼し、現在も表示中 ・令和元年7月、県の道路交通情報センターへ「新大橋通行止め」の情報提供し、VICSからカーナビの交通規制状況に反映 ・平成31年3月、八太郎交差点を含む沼館大橋交差点から蓮沼交差点までの区間に6枚、八戸ガス前交差点を含むGU前交差点から東北電力八戸技術センターまでの区間に4枚の告知看板を設置 	

● 意 見

No.	内 容	担当課
32	<p>施策シート：P18 施策を取り巻く課題や論点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路等の整備においては、歩行者や車両の通行の至便性を高めるとともに、安全確保の点も担保できるようにして戴きたいと思っております。 	道路建設課
	<p>【回答欄】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難路としての道路整備につきましては、車道や階段道路の拡幅、歩道の一部拡幅を行い、走行性の向上を図り、また、歩道を新たに設置し、一部区間においては防護柵を設置して、歩行者の安全を図っております。道路等の整備にあたっては、今後も歩行者や車両の通行の至便性を高めるとともに、安全確保を図ってまいります。 	

(5) 公共交通の維持・確保

● 意見

No.	内容	担当課
33	<p>施策シート：P22 施策を取り巻く課題や論点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口の自然減少や道路整備の発達による自動車利用の増加により、公共交通利用者は減少の一途をたどっています。その一方で、高齢者等の交通弱者は増えていくと思われることから、ニーズを把握しながら持続可能な交通体系を検討する必要があるのではないのでしょうか。 <p>【回答欄】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八戸圏域の公共交通利用者のうちバス利用者は、各種施策を継続的に実施してきたことにより、上限運賃実施前との比較で、4.9%増加しております。 ・このような中、委員ご指摘のとおりバス利用者に占める高齢者の割合は増加している状況にあります。 ・市では、第2次八戸市地域公共交通総合連携計画の策定時である平成25年度に市民アンケートを実施しており、その中では「低床バスの導入」を求める声が最も多く、高齢者向けの対策にもつながることから、バス事業者において導入を進めてきております。 ・市営バスの低床バス導入率は、平成26年度末時点の21.8%から、平成30年度末時点には、74.6%に向上するなど導入が着実に進んでおります。 ・今後も、機会がある毎にニーズ把握に努め、今後の計画に反映させていくように努めていきたいと思っております。 	都市政策課